

保育北九州

平成29年7月1日

発行 (一社)北九州市保育所連盟
〒805-0019
北九州市八幡東区中央2丁目1-1
(レインボープラザ5F)
電話(093)661-2153番

発行人 酒井光義
編集人 日野真人

2017 **188**



スイカ割り

(5歳児の作品)

〈提供 若松支部〉

表紙	1
就任のご挨拶	2～3
仲間たち	4～5
研修・一期一会	6
支部近況	7
雑感・編集後記	8

就任のご挨拶

(二社) 北九州市保育所連盟

会長 酒井 光 義



この度、平成29年度一般社団法人北九州市保育所連盟定期総会におきまして、理事会でのご推薦と皆様のご承認をいただきまして、当連盟会長職を重任させていただくこととなりました。あらためて皆様のご支援ご指導、そしてご協力をいただきながら、精一杯努めさせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いたします。

振り返りますと、就任させていただいた当初は、矢継ぎ早になる諸行事をどうにかこなしていた気がします。しかも緊張の中ですから何を言うのかも忘れてしまいうのでありました。作っていた名刺が数ヶ月もしないうちに無くなることも初めてのことでした。それだけ多くのかかわりを持たせていただいたことに驚きと感謝の気持ちで一杯です。

これまで連盟の中でもお役をいただき、自分なりにその職を務めてきたつもりではありましたが、ほんの一部のことでありました。やはり会長という職務の大きさと、重責といわれる立場が改めて知らされたことですし、先代の偉大さが身にしみます。また組織の力、大きさというのも改めて実感することです。

「視点は子どもたち」これまで私たち北九州市での保育の道を歩むも

の信念として、先代より受け継がれてきたことばです。保育の現場にあっては至極当然のことであり、その視点があるからこそ現状に甘んじることなくその対処方法を見つけ出し、自らの力と共に他の多くの力を得て実行してきたあゆみそのものが現在の北九州市での保育の実情といえます。だからこそ子どもたちの保育環境はもちろんのこと、職員の処遇の改善や保育環境・保育の質が高められてきました。それは保育先進都市と注目されてきた由縁でもあります。

また保育の道を歩む者がその力を発揮し、子どもの幸せを念ずる思いを届けるうえで、組織の充実は欠かせません。思いがひとつであるからこそ、ひとつにまとまることは必要です。さらに子どもに関係する団体との協調は必然です。そこに熱意と信頼をもって互いに関係性を高めてきたことが、現在の行政をはじめとする各種団体との連携の中にあつて、重要な位置づけとして扱われていますし、これに応える力のある団体としても認められています。そして数多くの諸団体との関係を今も構築し続けています。

こうした先人のあゆみと思いは、ひとつだからこそ受け継ぎ、また伝

えてゆかねばなりません。私自身その重責を担うに足りるかはわかりませんが、会員一人ひとりと共有し、共育していくところに新たな道が見えてくる気がしますし、力となる思いも感じられます。

子ども子育て支援新制度開始から3年目、社会福祉法人制度改革の開始の年、保育所保育指針改正の周知期間の始まり、更に職員処遇改善・キャリアアップの構築と保育界を取り巻く課題は山積みです。一つ一つをクリアしてゆかねばならないことではありますが、言われることをするだけではなく、ひとつ先を見据えた思いや夢・希望が論じられ、それに向かっての方法が構築されるよう行動を起こし始めることも大切なことなのではないと思います。

まだまだ未熟な私ではありますが、同じく重任された、(公社)北九州市私立保育園連盟会長の橘原淳信先生、北九州市保育士会長の北野久美先生をはじめとして、顧問の方々のご指導をも仰ぎながらその職務に励みたいと存じます。重ねて他役員をはじめ会員の皆様の一層のご協力とともに、変わらぬご厚情をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。

(公社)北九州市私立保育園連盟

会長 橋原 淳信



この度の役員改選において再任され、本市私保連会長として八期目を数えることとなりました。いささか長期に過ぎるのではないかと自覚しながらも、今回示された法人制度

改革や保育制度についても、次々と新たに施策が打ち出されているこのような変革の時期に、少しでもこれまで会長としての職務で培った知識や経験等がお役に立てれば……、との思いから引き受けさせていただきました。なお、ご承知のとおり(公社)全国私立保育園連盟は全国を六ブロックに分けて組織を構築していますが、その一つに「九州ブロック」があります。これまでも九州ブロック長として全私保連の役員としての責務を担っていたところですが、今

回も九州ブロックから推挙されブロック長となり、全私保連副会長の役職に就任することとなりましたことをお伝えいたします。

常日頃から晩節を汚すことなく職責を全うしたいとの思いは持ち続けてはおりますが、やはり会員の皆様の御支援・御協力がなければ何一つとして実践・実行することは叶いません。どうかこれまでより以上にお力添えをお願い申し上げます。

本市私保連も公益社団法人として着実に活動を進めていることはご承

知のとおりですが、これからもその歩みを停滞させることのないよう進めてまいりたいと心を新たにしているところです。

「保育は北九州から」と声をあげ続けて下さった先達の諸先生の思いを肝に銘じ、行政との連携を強めながら、会員皆様の先頭に立って時宜に即した行動をもつて事にあたることを肝に銘じております。

何卒これまでより以上に会員の皆様方の御指導・御鞭撻をお願い申し上げます。

北九州市保育士会

会長 北野 久美



この度、5月23日の総会にて再任され6期目を務めることになりました。

「子ども・子育て支援新制度」が3年目の見直しの時期を迎え、さらに来年度から施行される「保育所保育指針」の告示を受け、周知のため

の研修も行われます。大切な節目での会長職に自分自身の力不足に大きな不安がございますが、先輩方の築かれた揺るぎない基盤を持つ北九州市保育士会の会員の皆様と、保育所連盟の皆様のお支えをいただきながら、信頼にお応えできるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いたします。

さて、前述しましたように、本市でも新制度に基づいて計画された「元気発進!子どもプラン 第2次計画」「北九州市子ども・子育て支援事業計画」の中間見直しの年となっています。これまでは量の確保に軸

足のあった感が否めない計画でした。しかしもう一つの目的である、「質の確保」のためにも、子どもの育ちを真ん中に置いた保育内容の充実と、その傍らで育ちに向き合う保育士等の社会的地位の向上と処遇の改善を中心課題としながら、発受信したいと考えています。ようやく本腰の入ったキャリアアップの仕組みですが、給与面の反映にとどまらず、キャリアパス本来の意味につながるような体制づくりに対してもきちんと発言したいと考えています。

新保育所保育指針においても、法律上の教育施設ではない保育所が、

制度としては教育を行う施設であることと認定された内容であることもとらえつつ、総則にこめられた乳児からの育ちのステップを来年度に向けて再認識しながら読み解きたいものです。

今年度も北九州市保育士会では【保育の真と新】を見失わずに保育士会活動を展開いたしますが、これまでの10年の会長経験を活かし、今後の展開に関して方向性を間違えないように取り組みます。

これまで以上の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



おひさまのいえ・もりのいえ

前編

保育北九州編集部で、保育所(園)が、子ども達の宿泊や遠足として利用できる緑地保育センターに伺いました。第1緑地保育センター「おひさまのいえ」の赤尾知樹所長、第2緑地保育センター「もりのいえ」の中村成人所長にこれまでの歴史や色々なエピソード等をお聞かせいただきました。188号と189号の二回に分けて掲載いたします。



おひさまのいえ

Q. 第1緑地保育センター「おひさまのいえ」第2緑地保育センター「もりのいえ」について、それぞれの成り立ちを含めて教えてください。

A. 「おひさまのいえ」は、北九州市立第1緑地センターが正式名称です。そしてその開設は、昭和50年10月です。場所は若松区響灘緑地公園内に建てられました。昭和50年当時は、全市をあげて公害対策を実施中でした。市民から少年自然の家の幼児版を作ってほしい要望もあり、当時の谷市長の決断によって設置されました。「おひさまのいえ」という愛称は市民からの公募で決定しました。「もりのいえ」は、北九州



おひさまのいえ施設図



もりのいえ施設図

市立第2緑地保育センターが正式名称で開設は昭和61年4月です。当初は小倉南区堀越に建てられたのですが、高速道路建設の為に、現在の小倉南区の長野緑地に建て替えられました。「もりのいえ」というのも愛称です。両施設とも、平成18年度から指定管理者制度が実施され、その指定管理者は設立当初から社会福祉法人「北九州市福祉事業団」です。現在4期目の運営を行っています。

Q. 緑地保育センターは、具体的に何を目指した施設なのですか？

A. 高度成長期から続く生活環境の変化に伴い、子ども達は、自然の中で遊ぶ機会を失いつつあります。緑地保育センターは、「幼児を恵まれた

自然環境の中でのびのびと遊ばせながら情操豊かな人間性を養い、集団生活を通して自立心や協調性を見につけ、心身ともに健康な子どもを育てていくこと」を目的とした施設です。

Q. このような施設は、全国に何箇所あるのでしょうか？

A. なかなか珍しい施設のようで、全国でも4~5施設しかありません。設置自治体は京都市、横浜市、熊本市、北九州市だけです。特に、北九州市にはそのうちの2か所あり、これは自慢できることだと感じています。文部科学省の調査で、幼児期に自然体験遊びを活発にした子は正義感が強く、協調性も育つというデータが出されましたが、これも北九州の



おひさまのいえ

先見性の高さを証明するものだと思います。また、設立当初から「おひさまのいえ」は好評をいただいております。人気が高く利用者が多いことから、小倉南区にもう1か所設立する運びとなったのです。設立順で言いますと、全国で最初に設立されたのは京都市であり、2番目が北九州市で第1・2緑地保育センターが続けて設立されました。

Q.施設内にスタッフは何名いらっしゃるのですか？

A.各施設に4名ずつ職員を配置しています。これほど手厚い職員配置が為される施設は、全国的に見ても、他にはありません。この手厚い職員配



もりのいえ

置によつて、子ども達の生活支援やあそびの提供が十分にできます。

Q.これらの施設は、全国に4・5施設しかない珍しい施設ですが、法律的にはどのような種別に入るのですか？

A.実は緑地保育センターのような施設は、法律上はどこにも帰属しない施設なのです。ですから国や県からの補助金はありません。北九州市の場合ですと、市の条例によつて規定され、市が単独で運営しています。北九州市においては児童厚生施設と位置付けています。つまり児童館と同種扱いです。市民の税金による単費の施設なので、市外在住の方の利用は厳しく制限されています。

Q.利用対象者と定員を教えてください。

A.利用対象者として団体利用と宿泊利用があります。団体利用は、保育所（園）・幼稚園・認定こども園その他の幼児集団です。個人利用は就学前の児童とその家族です。宿泊利用は就学前の児童とその父母です。定員は2施設とちかも100人です。

Q.前年度の利用数を教えてください。

A.おひさまのいえの宿泊利用数は103団体（3625名）、親子宿泊3回開催（94名）日帰り保育、101団体（6664名）です。もりのいえの宿泊利用数は144団体（5617名）親子宿泊3回開催（139名）、日帰り保育、73団体（5158名）となっています。

Q.宿泊以外では、どのような利用・活用の仕方がありますか？

A.幅広い利用者に応えるため、宿泊保育の他に、日帰り保育、親子宿泊ファミリーレクリエーション、などの利用方法があります。基本は団体利用ですが、親子宿泊とファミリーレクリエーションは個人利用できます。また、子育てグループサポート（障害児支援、育児サークル支援）、出前公演、ホタル育成（もりのいえのみ）等の指定管理事業を展開し更に指導者のセミナーを開催するなど支援

活動にも取り組んでいます。

インタビュー（保育北九州編集部）

189号に続きます。

寄付

（一社）北九州市保育所連盟

（公社）北九州市私立保育園連盟

へご寄付

光保育園 園長 江田正行様より

瑞寶雙光章受章に伴い多額のご厚志を頂戴いたしましたので報告いたします。寄せられましたご主旨を尊重し、有意義に活用させていただきますと共に心から感謝申し上げます。

寄付

（一社）北九州市保育所連盟

（公社）北九州市私立保育園連盟

へご寄付

社会福祉法人 めぐみ会 理事長

長 内藤法徹様より前園長 内藤

典子様のご逝去に伴い、保育事業

発展のため多額のご芳志を頂戴い

たしましたので、ご報告申し上げます。

研修・一期一会

第60回

全国私立保育園研究大会

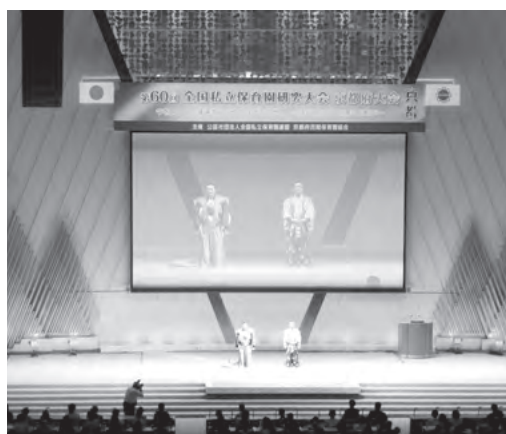
「今をよりよく未来をみつめて」

子どもの世界」

「今をよりよく未来をみつめて子どもの世界」をメインテーマに、6月7日～9日、国立京都国際会館にて、第60回全国私立保育園研究大会が開催されました。初日のオープニングでは、狂言師・茂山千五郎氏と松本薫氏による「寝音曲」がありました。基調報告では、全国私立保育園連盟常務理事の塚本秀一氏より、「保育分野の現状と取組について」処遇改善の仕組みと、それに伴うキャリアアップ研修について説明がありました。今後このシステムの認知度を高め、職員間で共通理解していく事が重要になると話されました。また平成30年の保育所保育指針改定に関して、その内容を保育者がどう捉え、保育の質の維

持と向上、そして次世代育成コミュニティの創生という保育者の重要な役割を認識する必要があると述べられました。シンポジウムでは、「これからの日本の教育と保育の在り方」と題し、4名のシンポジストの方が登壇されました。内田伸子氏は、人はその関係性の中で、0歳から学ぶことができ、自発的あそびが学習能力向上に繋がる事を話されました。藤森平司氏は、子どもは胎児から自発的な力を持ち、集団的愛着形成によって社会性を身につけていくと語られました。リヒテルズ直子氏は、保育と教育との繋がりを再構築する気運が高まっている今こそ、保育は基本的理念を伝えていくべきと言われました。そのことで自分たちの行っている保育の重要性をあらためて認識しました。久保健太氏は、自らの手で自らの社会を作り上げていく話から「エンゲストロームの学習理論」について話されました。興味をもつことによって意欲が湧き、そ

こから遊びに繋がる中で、学びへと進んで行くと言われました。シンポジストのお話の多様性の中に、保育が本質的にもつ深甚性を感じさせられました。2日目は24の分科会の中から第7分科会「支援を必要とする子どもの理解と援助」に参加しました。岐阜県西保育園の専門機関との連携の仕方、広島市保育所まこと学園の臨床心理士との協働、熊本市かつばこどもえんにおける、保護者の集う場作りとその共通理解を図る実践発表など、どの園も試行錯誤しながらも、チームで連携しカンファレンスを重ね、共通理解をしてきたと感じた発表でした。京都文京短期大学講師の張貞京氏から、支援の



本来の意味や気になる子と、気にしたい子の違いについての助言がありました。保育士自身が幅広い視野と洞察力を持ち、園における検討会やチームで記録を活用する大切さを学びました。大会最終日は、元東京ヤクルトスワローズ監督・捕手の古田敦也氏による「遊びが成功の原動力」の講演でした。古田氏は自身が育った温かい家庭について語られ、好きなことに熱中して育った、子ども時代を話されました。古田氏の、「可能性がある間は自分の可能性に挑戦する」という言葉がとても印象的でした。

最後に次回開催地名古屋からのPRビデオが会場を沸かせ、大会旗がバトンタッチされ、幕を閉じました。どんなに時代が変わっても、保育の原点は変わっていない事、保育の質の向上が、子どもの健やかな育ちの保障へと繋がるのだということを常に心に刻み、様々な視点で、子どもだけでなく保護者も支援できる関係性を作るためにも、職員間のチーム力が磨けるよう、日々の保育に真摯に向き合っていこうと思いました。

光保育園 梅田 博子

支 部 近 況

第14回 | 八幡東区篇

今年は旧八幡市誕生100周年です。八幡東区では記念として様々な催しが計画されています。八幡東支部でも今年度の保育まつりは「八幡市制100周年記念保育まつり」として内容を計画しているところ。その八幡東支部の各保育所の様々な近況を紹介します。

杉の実保育園

大蔵地区では、ちやま神社夏越祭りに合わせて、ちやま幼稚園・大蔵保育園・杉の実保育園児による尻相撲大会が開催されています。今まで幼稚園との交流はありませんでしたが、これを機会に交流を深めたいということで、合同遠足も計画しました。高齢化した地区を盛り立てるために連携しながらいろんな催しに参加しています。

高見の森保育園

28年度から3年間、保幼小接続カリキュラムの一環として「幼児教育の推進体制構築事業」に参加させて頂いています。そのことに関して3月9日の新聞に記事が掲載されました。保育指針に基づいて、毎日の生活や遊びを充実させることが大切だという事が参加することで改めて認識できました。

小百合保育園

保育園に子ども達が大好きな一匹の金魚がいます。名前は“きんちゃん”。10年も生きている長生きの金魚です。毎日餌をあげたり、名前を呼んだり…子ども達にとっても仲良しです。



八幡東さくら保育所

さくら保育所は地域子育て支援センターとして「さくらキッズルーム」を併設しています。『いつでも誰でも、予約なしに利用できる～屋根のある公園～』として利用してもらい、保育士が関わりの仲立ちをしながら親と子どもにスポットを当てた子育て支援をしています。

大蔵保育園

今月の献立表旬の食材は、ハッピーランチ(誕生会)メニューにあるピースごはんの豆。前日に見る・触れる・匂うの恒例活動『もぐもぐタッチ』をしました。絵本《そらめくんのベッド》を思い出し、子どもたちからはステキな言葉・発見が飛び出していました。

高槻保育園



園舎のすぐ前にあるさくらんぼの木。いつもGWの間に食べごろになり、鳥たちにすっかり先を越されていました。でも今年は赤くなるのが例年より遅く、みんなで収穫することができました。

春の町保育園

5月13日に運動会がありました。春の町保育園では園庭で運動会を行うことが恒例となっています。前日から当日未明まで大雨が降り続き心配しましたが芝生をブルーシートで覆い、水はけの良い園庭の真砂土に助けられ無事予定通り行うことが出来ました。

中央保育所

保育所の一番の散歩コースは高炉台公園です。公園には高炉を模した登れるモニュメントがあります。遠足では保育士がラプンツェルに扮し、年長児が上まで登って勇気を見せました。

杉の実乳児保育園

今年度は第三者評価事業に挑戦！自分たちの現在の保育の見直しをと思い、一項目ずつ職員全員で再確認し見直し中で、職員の連携が出来ていきました。評価結果が出るまではドキドキ…。再評価に向け、また頑張ろうと思います。

ふたば保育園

0・1歳児の遠足は保育士とマンツーマンで過ごす時間になっています。おやつをもって園を出ます。途中でお花や車を見たり、抱っこをされたりおんぶをされたり思うままが満たされるひと時です。満たされた笑顔で帰園です。

清心保育園

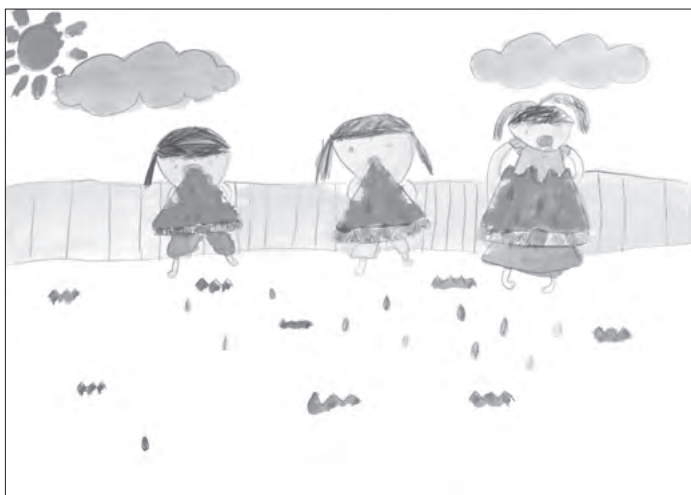
園舎建替工事で園庭のダンゴ虫がいなくなりました。そこで散歩に出かける度に公園からダンゴ虫を連れてかえりました。最近やっと手にダンゴ虫をのせて「見て見て！」という子ども達の嬉しそうな声が聞かれるようになりました。

堂山保育所

堂山保育所の周りは自然がいっぱいです。春が近づくと敷地内につくしが顔を出し、たくさんさんの桜の花が咲きとてもきれいです。毎日、季節を感じることができます。

つばさ保育園

毎年4歳児が歌や遊戯を披露している“夢まつり”。地域の方々に拍手を頂いたり、触れ合ったり楽しみにしていたのですが、去年は大型台風北九州を直撃！の予報で中止。でも、結局台風はきませんでした。



スイカ、おいしいね!

(5歳児の作品)

小さなスーツケースにありったけのおやつと着替えを詰めて娘が「わたし、家出する! かあさんは何もわかってない」と言いながら近くのバス停に向かったのは、小学校2年生の冬休みのことだった。この突然の出来事に「え? どうして...」と私の頭の中で、疑問符が広がる中、娘の後ろ姿を遠巻きに見守り、見送ることしかできない自分がいた。その時、神様がお助けになったのか、偶然にも私の妹が車で通りかかり、状況を察知して「家出するなら送ってやるよ、どこに行く? おばあちゃんのところ?」と声をかけてくれて無事に実家の義母のもとへ手土産を添えて送ってくれた。

その夜、義母から電話がかかってきた。私の不甲斐なさにきつとお叱りの言葉が返ってくるだろうな、とドキドキしながら電話に出た。「心配しなくても大丈夫よ、ここで2、3日過ごすと落ち着くでしょう。あなたも日ごろ忙しいからゆつくりしなさい。きょうはね、一緒にお手玉をしたりビーズで首飾りをつくって遊んだよ。お風呂にも一緒に入り私も元気をもらったよ。苦しい時こそ笑顔でね。何とかなるから」と温かい励ましの言葉をもらった。義母の言葉を胸に、一晩ゆつくりと自分と娘のことを振り返ってみた。そういえば... 私がクラスだよりの下書きをしている傍で娘も「私もお手紙書いたよ、見て」と言っただけの日記帳をもってきたことがあった。その時私は、毎日の家事、仕事、育児に追われ忙しさのあまり、「うん、うん後で見せて」と空返事をした

だけだった。その時の日記をじっくり読み返してみるとそのページには、娘が私に出しているSOSの内容が綴られていた。「こどものねがおはなごみます。どのこもかわいい、パチパチパチ。みんながんばっていますよ。サンタさん、わたしにゆりかごください。赤ちゃんになってゆくりしたいから...」と。何度も繰り返し読んで目頭が熱くなった。まさか我が子がかような事を思っていたなんて、どうして感じとってやれなかったのか。自己逃避していた自分を反省した。娘にとってゆりかごは実家の義母そのものだった。

保育士として保護者の前では「お母さん、子どもの声には耳を傾けましょう。小さなサインも見落とさないようにしましょう」と、偉そうに子育て理論を語っていた私に、もう一度立ち止まり、足元を見直し、謙虚な姿勢で臨みなさいという指標を覚えてくれた出来事だった。また、義母や妹の懐の深さに感謝している。家に戻ってきた娘は「おばあちゃんと一緒につくったよ」と言っただけの首飾りを私にプレゼントしてくれた。何物にも代えがたいこのプレゼントは、今でも私のお守りとして、そととカバンの隅に忍ばせている。そして時々取り出してはあの頃のことを思い出している。その思い出が色あせることはない。これから保育士として保護者や子どもたちの心の叫びに寄り添える懐の深い人間でありたいと思う。

畑保育所 縄手久理

編集後記 — (咲 — わらう)

先日、父の49日法要の仏花を本堂で生けていました。いつもはあまり上手に生けられないのですが、この時はいつもより少しだけうまくいきました。本堂に立てられた三つの華瓶を見ていたら、まるで花が笑っているような気がしました。「咲」という字は、「笑」という字の古字です。もともとは「咲う」と書いて「わらう」と読んでいたのですが、いつの間にか「笑」という字にとって代わられました。そういう目で花を見ると、確かに笑っているような気がしませんか? 「看花3日、養花1年」と聞かせて

いただいたことがあります。花の見頃はわずか3日だけど、その花を育てるのは1年かかるのですよ、という意味です。そしてこれは見るのと養うのを分けて考えるのではなく、1年と3日を合わせて花の姿と考えるのですよ、とも教えていただきました。子どもたちが成長し、保育者と子どもが互いに咲く時は短いけれど、それまでの時間があつたからこそその咲顔(えがお)、と感じます。

「保育北九州」編集長 日野真人